

70  
364

野球の手引 川上栴月著

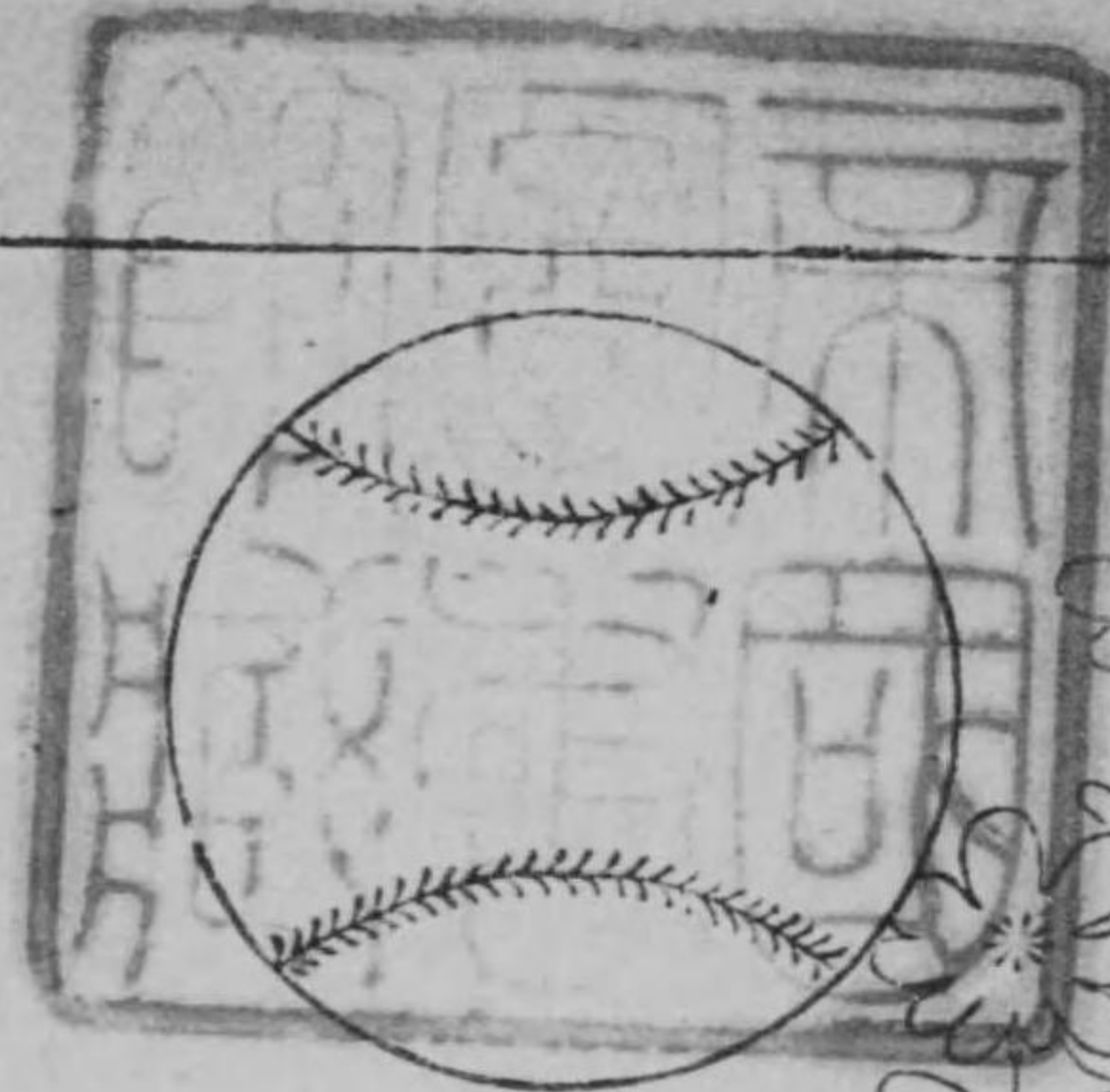


始





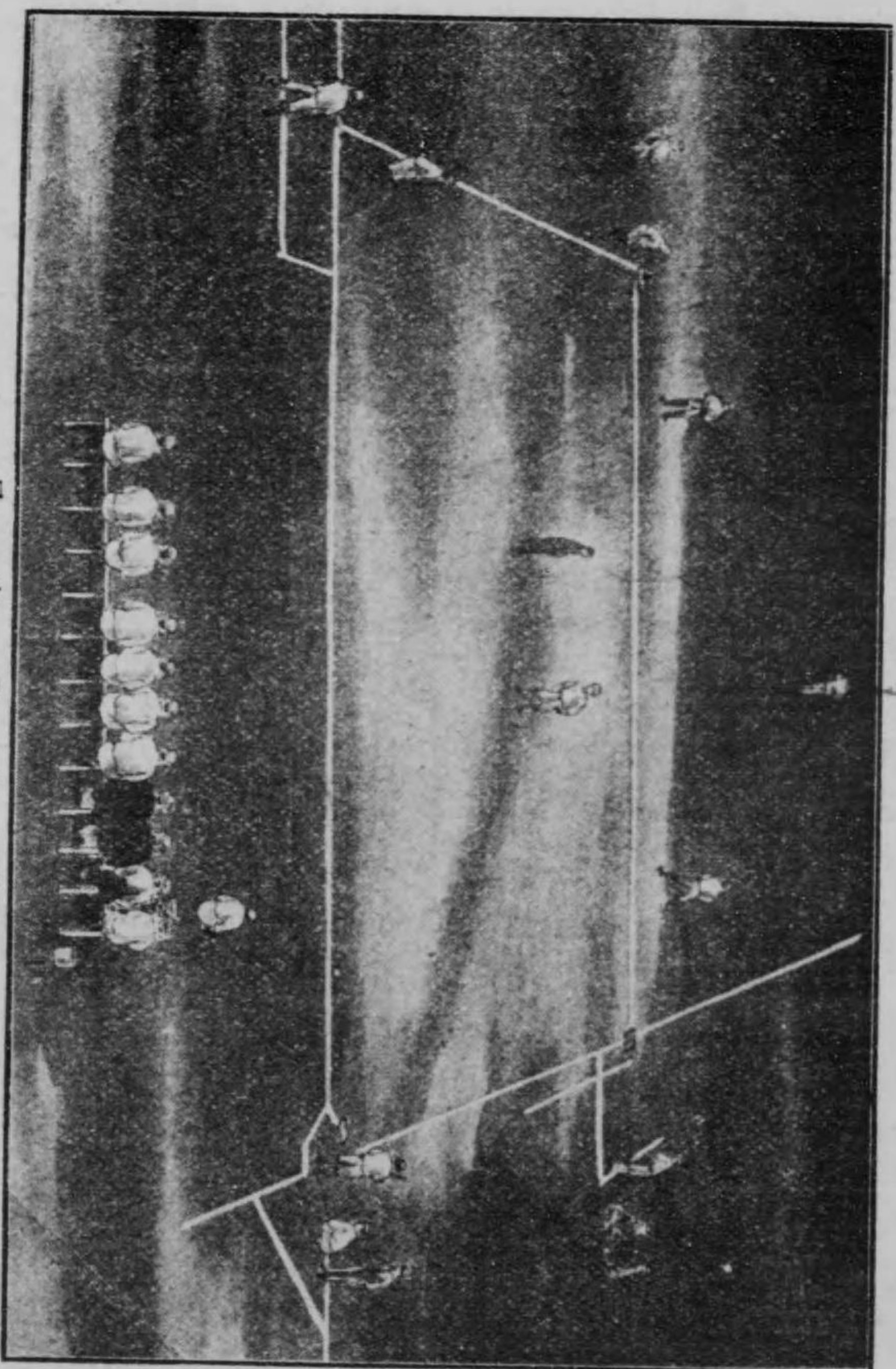
70-364



川上掬月著  
野球の手引

大正  
5. 4. 19  
内交





景光の台試

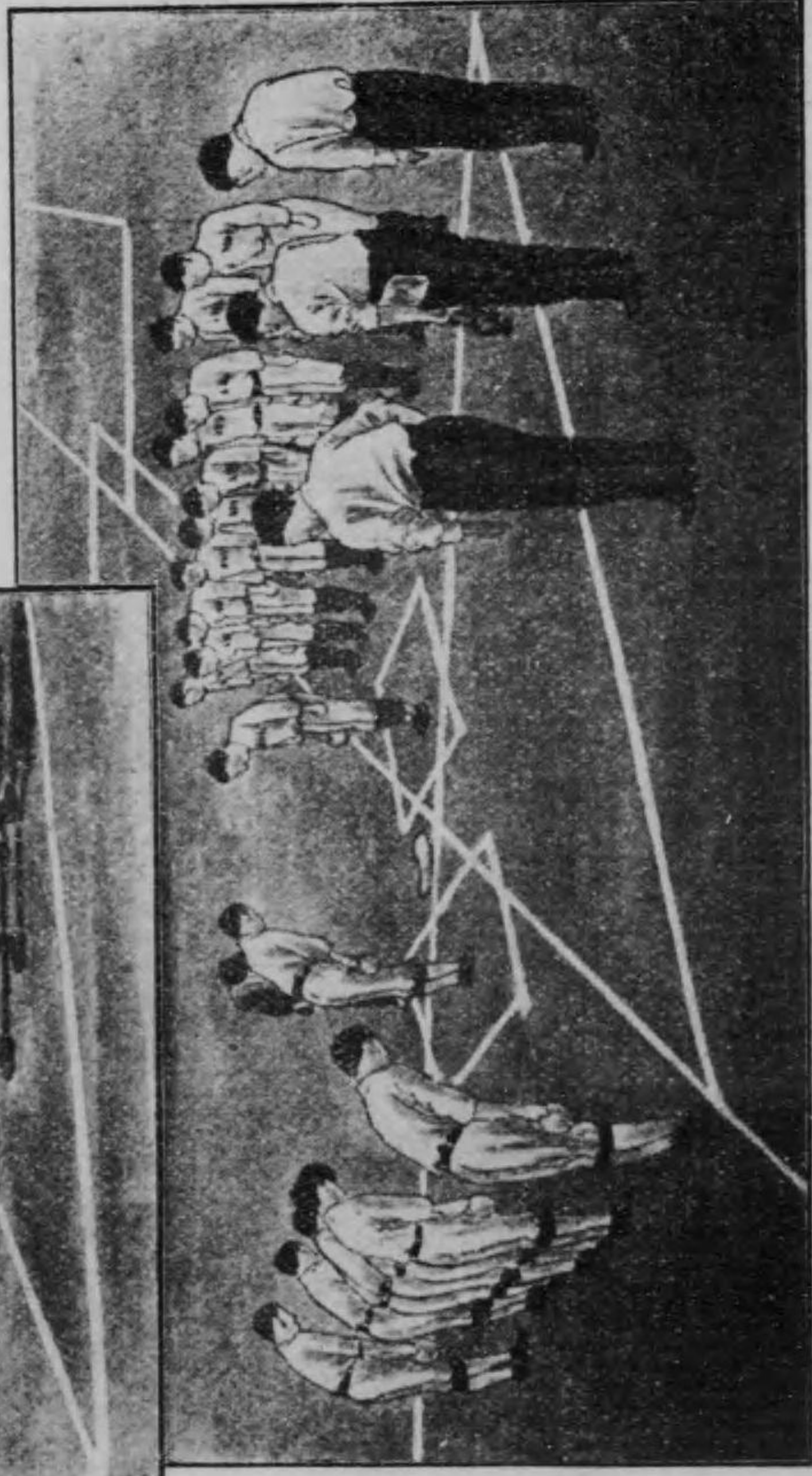
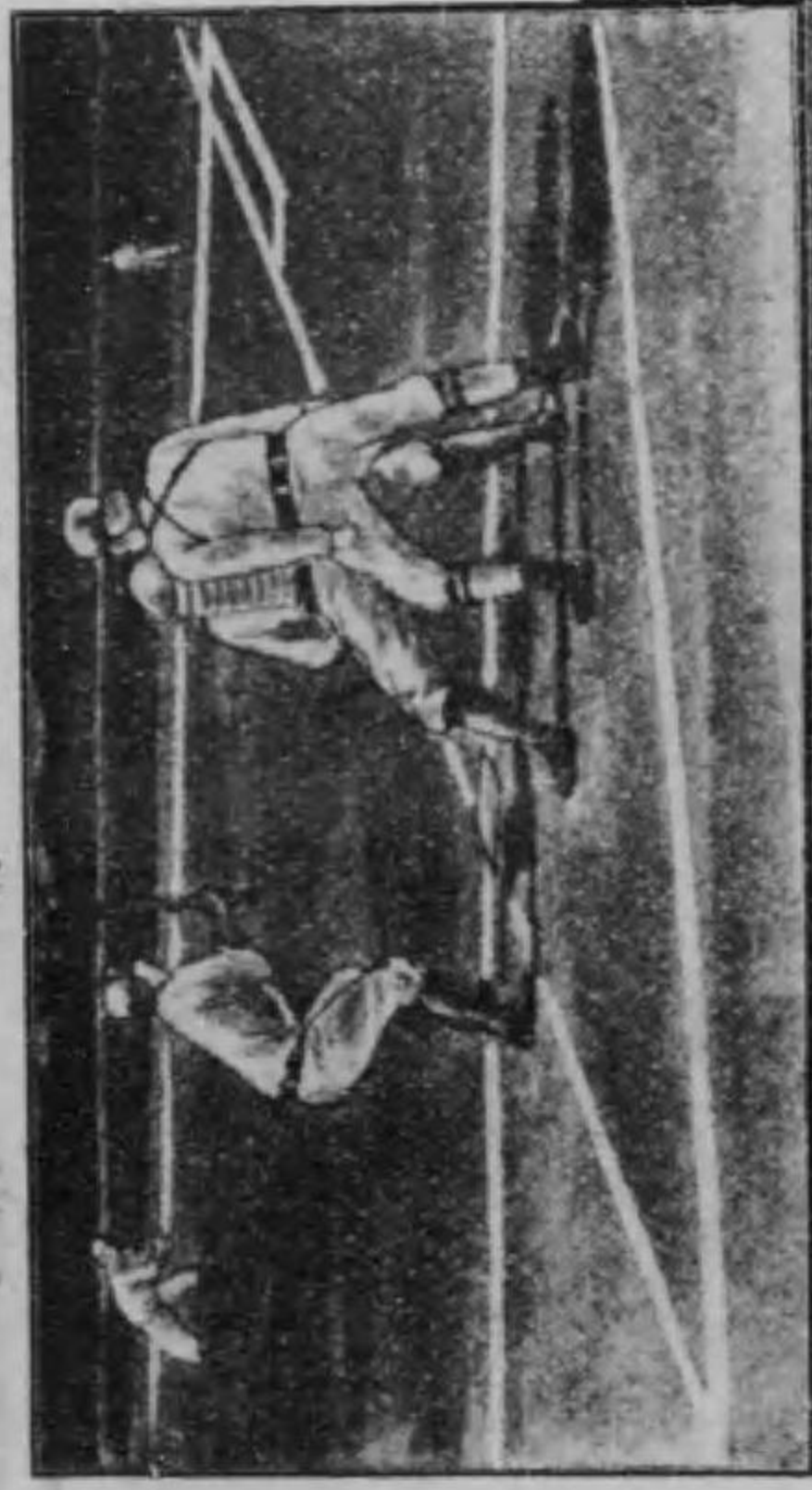




投手（將に投球せんとする利那）



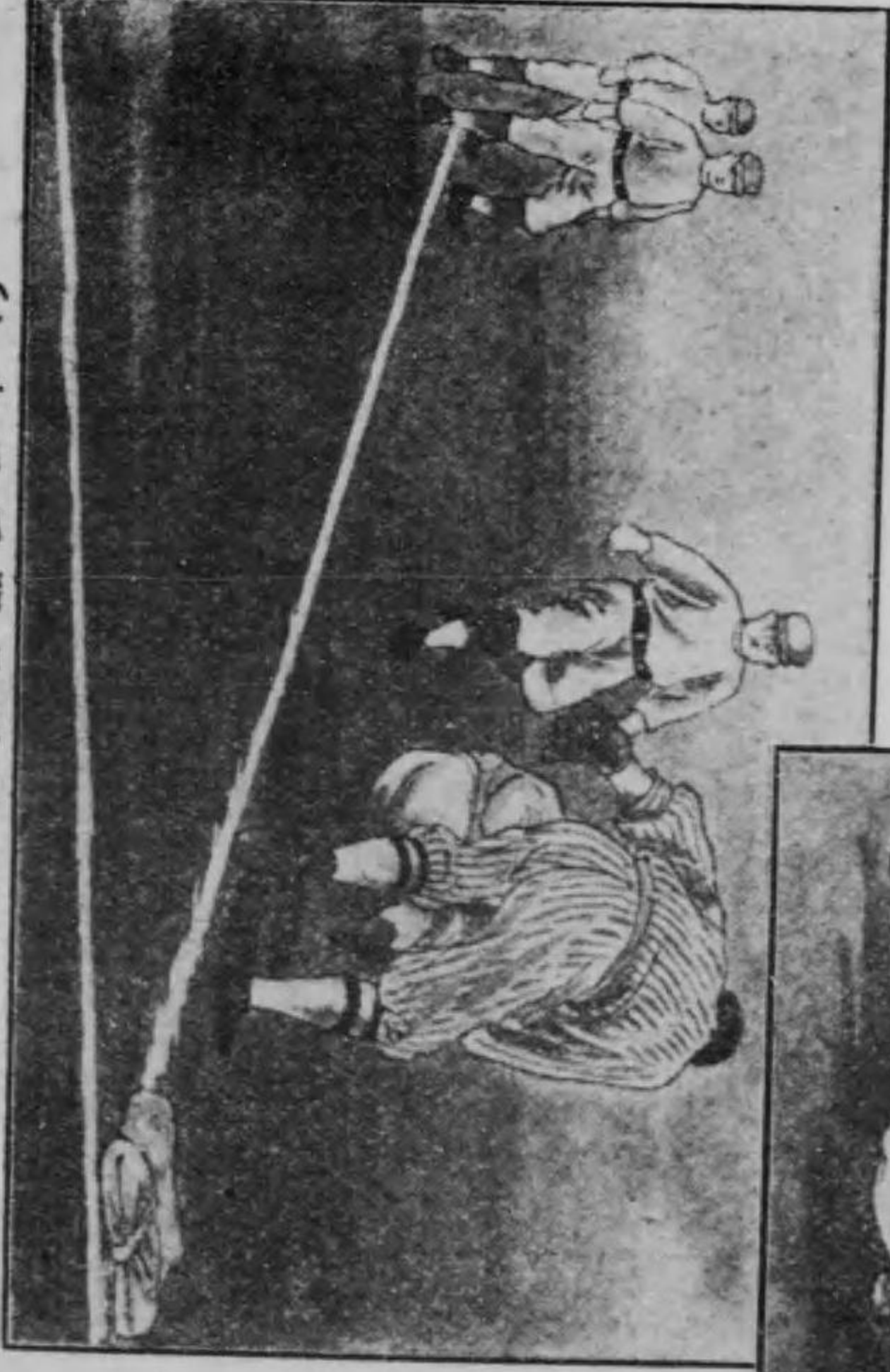
手投者打手捕官判審員



禮敬の軍両前合試



(トウアアで間壘三壘二) 撃 抜



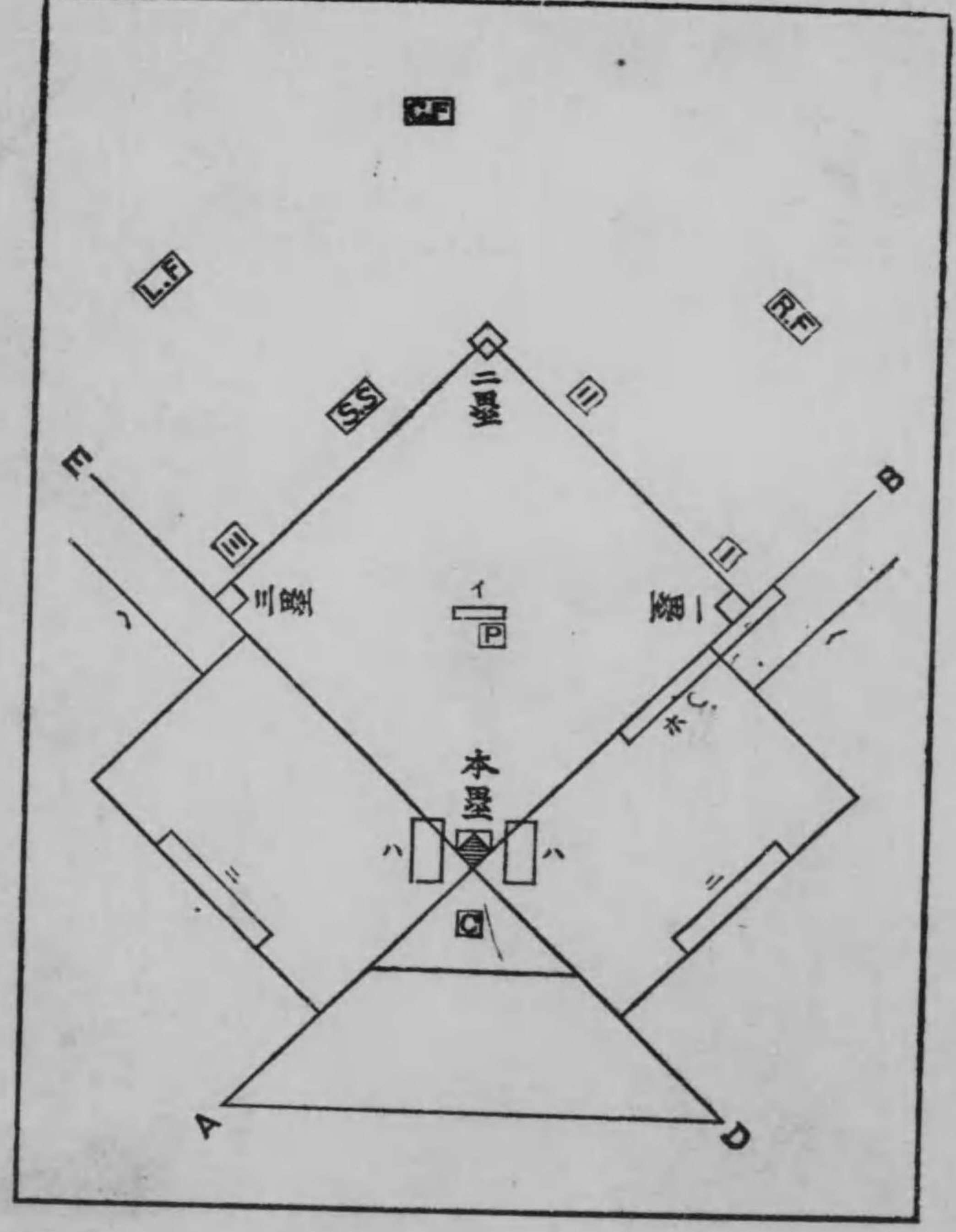
畫計 戦作の軍 撃 攻

(フーセでし進 驚くよ者走) 壘 一

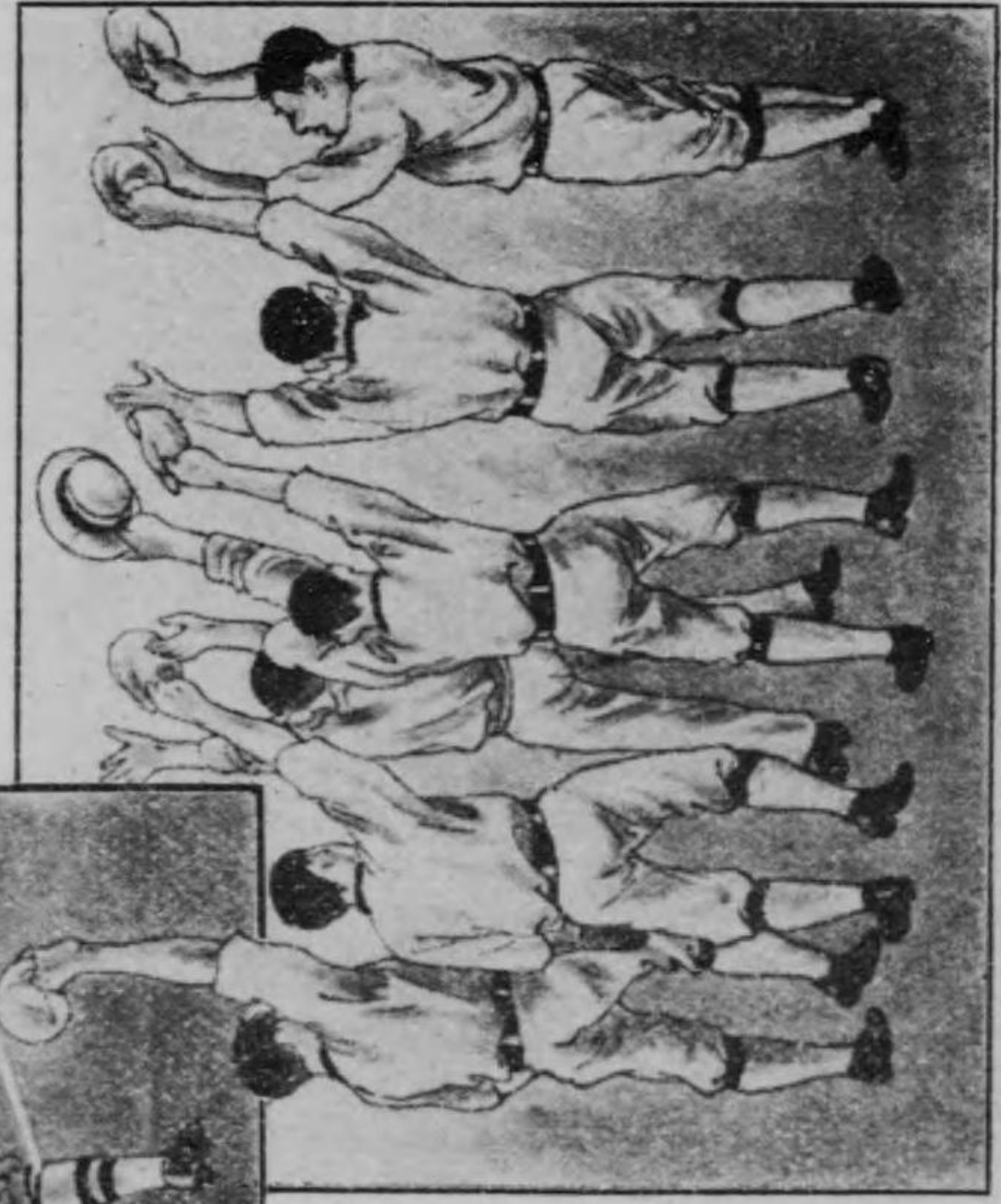


(トウアアで 髪 一 間) 壘 盗





(得な點一でん込滑にみ巧) 選 生



歳 萬 て つ 勝



序言

二三年以來野球熱の昂まつた事は實に素晴らしいもので、從來は只單に學生の專有物に過ぎなかつたものが今や一の國技となつて有ゆる階級の團體に組織され、全國到る所としてユニフォームで身を固めた勇しい健士の姿や、是が試合に熱狂して周圍に人垣を作つて居る觀衆を見ざるはなしと云ふ勢、されば猫も杓子も是を行ひ是を觀、是を知らないのは何だか時勢に後れたかのような氣がする、と云つて四度や五度現場を見たばかりでは却々複雑で、加之に英語づくめの術語と來





て居るから何して何うなつたのか一向見當が付かない  
 そこで本書は斯麼人の爲めにと書いて見たものの筆も  
 拙ければ内容も貧弱で我ながら情けなくなる、遮莫一  
 行でも二行でも幸に讀者の参考になる箇所があつたと  
 すれば、以て著者は無上の光榮とするものである。

大正五年一月第三日曜日

萬葉の雪を沿びつゝ、我健士の奮闘せる  
 二河原頭を遙かに瞰下しつゝ、

掬

月誌す

目 次

野球とは何してする?.....一  
 競技場と守備軍の配置.....三  
 用 具.....七  
 試合の準備.....三  
 試合開始.....五  
 打者と投手.....六  
 球の投げ方.....八  
 球の打ち方.....二〇  
 守備軍の活動.....二三

野 球 の 手 び き





きび手の球野

# 野球の手びき

川上掬月著

野球とは何してする？

是を一口に云つて終へば、敵味方と各九人宛に分れ一個の球を運用して勝負を決するものである。  
 即ち一方は敵に壘を奪はれまじと要所々々を固め、球を縦横に轉送して攻める敵を漏さじと防戦に努める、是を稱へて守備軍と云ひ、又一方は盛んに砲撃したり敵の虚を衝いたりして、敵壘を陥れて難なく根據地へ凱旋しやうと努める、是を稱へて攻

## 次 目

盗 壘	.....	二五
打撃順と満壘	.....	三一
攻撃と守備軍の交代	.....	三四
試合終了	.....	三五
審判官	.....	三六
附 記	.....	三六
野球用語	.....	三六

(終)

きび手の球野



撃軍と云うのである。斯くて定められたる規則の下に守備攻撃と各九回宛交代して、最後に得点即ち凱旋者の多い方が月桂冠を戴くのである。

本競技が運動技の中で最も高位に居る所以のものは、渠の只單に走るを以て能とせるマラソン競走や、呆房にでも取れる角力業や、乃至柔道擊劍の如く薄暗い室内でエイ／＼投合つたりするような一方にのみ偏する技でなくて、其争ふや正々堂々と協力一致して敵に面し其間些の奸譎を許すなく、腕力も要れば脚力も要り而も油断も隙も出来なくて、作戦計畫に脳味噌を絞りながら機敏な動作の下に秘術を盡して戦はなくてはならない。

だから却々複雑巧妙を極めて居て迎も馬鹿や呆房には出来ない藝當であるからである。

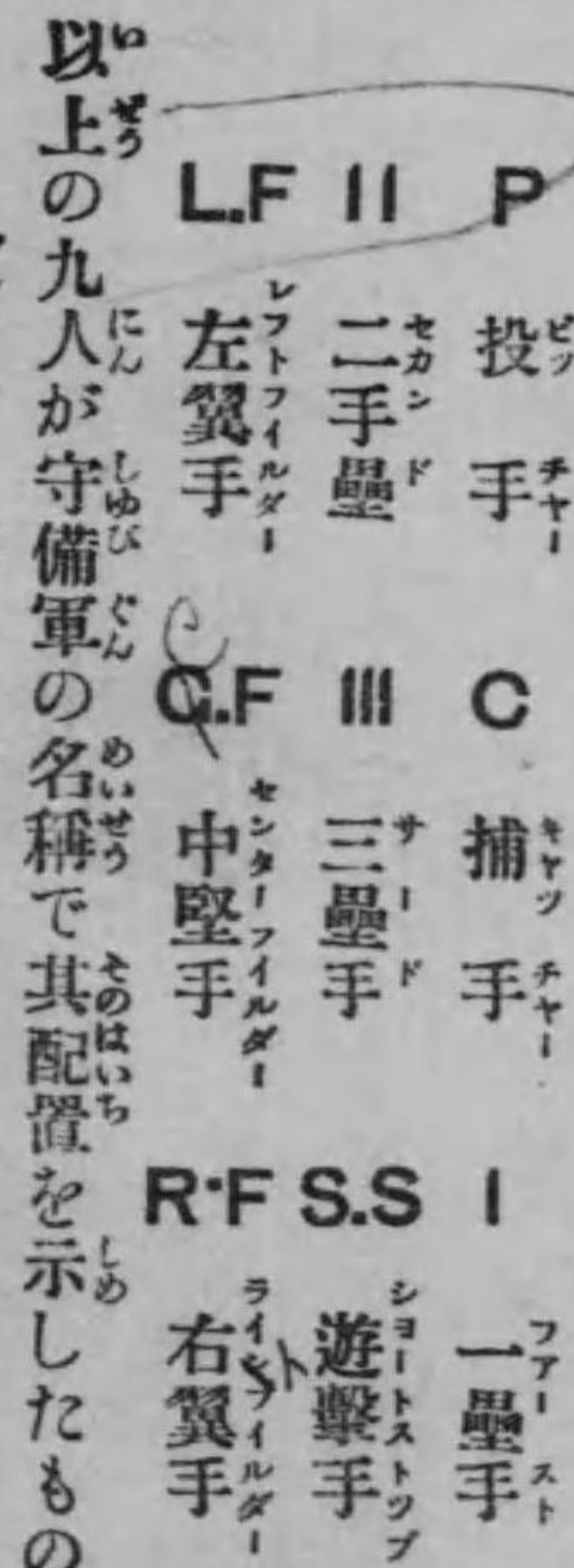
其奴を臆面もなく説明するなどは身の程を知らぬ沙汰であるが、未だ野球の何たるかを知らない人の爲めに、免に角ホンの概略丈以下項を分ちて述べて見やう。

## 二、競技場と守備軍の配置

野球の事を説明するに當つては、何しても最初順序として競技場の廣さや守備軍の配置等を述べて置くの必要がある、讀者も亦能く是を記憶して居て戴きたい、さもない時は本文を讀むに



及んで到る所差間へが生ずるから。  
借是を本式に示すと却々面倒なものになるから、爰にはホンの  
大體を略圖で示す事に止めて置かう。  
圖に就て説明すれば



以上の九人が守備軍の名稱で其配置を示したものである。  
イ、投手板、投手の居る所である、投手は必ず此上に片足を  
乗せて投球せねばならぬ、若し是を怠つた時はボークと

云つて、走者へ無爲にして次の壘を與へなければならぬ  
長さ二尺一分幅五寸三分。

ロ、捕手位置線 捕手の居る所である、投手が未だ球を投げ  
ない中に少しでも此三角形の線以外に出た時は、投手同  
様ボークとなる。直径十尺六分。

ハ、打者ボックス 攻撃軍の打者が順次一人宛此處に起つて  
投手の投げる球を打つ場所である、若し此範圍から出て  
球を打ちフェアヤブラウンド即ち方角内へ球が這入つた  
時は死の宣告を受けねばならぬ、長さ六尺四分幅四尺二  
分。



ニ、攻撃軍の休憩所である、攻撃側の選手は打者及び走者並に走者指揮者を除く外、必ず此處に休憩して居て観衆等に交つてはならぬ。

ホ、三呎線、走者が疾走する時此線から外へ出た場合は、死の宣告を受けねばならぬ。

ヘ、走者指揮者線、味方の走者に危険な時は注意を與へたり機を見て盗塁させたりする爲め此線に選手が居つて指揮する所である、一壘と三壘の所に設けてある。方角の線から十五尺九分隔て居る。

本壘から一壘、一壘から二壘、二壘から三壘、三壘から本壘の距離は各同一で、つまり十五間五寸二分の方角形である。

本壘から一壘、一壘から二壘、二壘から三壘、三壘から本壘の距離は各同一で、つまり十五間五寸二分の方角形である。

投手板から本壘間が十間八寸一分、投手板から一壘、投手板から二壘、投手板から三壘間の距離は各同一で、何れも十間四尺一分である。

此外一々詳しい事を述べると制限がないから、是位に止めて置かう、要するに本式に行ふ事になると競技場の廣さは一町四方なくてはならぬ。

三、用具



如何なる遊戯でも用具なくては出来ないが、特に野球に於ては種々な高價な武器が要る、序に参考として肝要なものだけ記して見やう。

**球** 何を指しても是品が最も必要なものである、只此一つの

球を打つ投げる捕る觸けると云つた風に、縦横に轉送しなければならぬ、護謨心の上を毛糸で捲付けて牛の滑皮を被せ、夫れを強い糸で縫うたもの、周圍は七寸五分乃至七寸七分餘、重量は三十八匁乃至三十九匁餘、普通一個八十錢のものを使用して居る。

**捕手ミット** 捕手専用の手袋である、捕手は最も多く球を捕

る役目であるから、特に丈夫で而も球の捕りよいものを製つたのである、指の分れて居ない丸味な手袋で重量も重ければ價も高い、米國製グラブザーと云ふ皮で作る中へ羊毛が入れてある、重量は二百匁位、價は三圓以上七八圓位迄。

**面** 捕手と球審判官が顔に被るものである、擊劔の面と略々同じ恰好のもので、價は二圓以上六圓位迄。

**胸當** 是亦捕手と球審判官が小供の前垂同様胸に當てるものである、表で滑皮で裏が布で中へ羊毛を薄く入れたもの、價は四圓以上七八圓位迄。



一壘手ミット

一壘手専用の手袋である、一壘手も捕手に亞いで球を多く捕る役目であるから、捕手ミットの稍々小なるもので、重量は百三十三匁位、價は三圓以上五圓位迄。

手套

捕手と一壘手を除く七人の守備者が嵌める手套である普通手套の大きなものと思つて居れば間違ひはない、此品も皮や中味はミットと同一である、重量は七十六匁位、價は一圓以上五圓位迄。

念の爲めに書添へて置くが、ミットもグローブも片手即ち左手丈けに嵌めるものである、但し左利きの者は右手

に嵌めなければならぬ事は云ふ迄もない。以上は守備軍の使用するもの丈けであつたが。

打棒

は攻撃軍唯一の武器で、攻撃軍は此品以外何物も要らないのである、材質は藤木又は朴木で製したもの、太い所が直径二寸三分、長さは三尺五寸位、價は七十錢以上一圓五六十錢位迄。

網

球が遠くへ飛ぶのを防ぐ爲めに捕手の後ろに張る網である、丈けが一丈、長さが五間、價は四圓以上六圓位迄、本壘 圖に示した如な五邊形で白色の護謨である、地中に固定して地表と水平にして置くもの、價は三圓以上六圓



位迄

一 壘 二 壘 三 壘の三個所に固定して置くものである、布で作つて中へ布屑を入れた座蒲團のようなもの、大きさは一尺二寸五分四角、價が三個で六圓以上八圓位迄

此外未だ二三の品物があるが、是位にして置かう夫れから制服や帽子等の要る事は列擧するに及ぶまい。

尙選手が靴裏の襪先と踵の處へ、三つ脚のついた金具を附着せしめて居るのを見て、皆さんは怪訝に思はれるであらうが、あれは靴丈けでは滑つて縦横自在に活動が出来ないから、夫れで

あの金具が地へ喰込んで滑らないやうにしたものである、だからあの金具は必要缺く可らざる物である。

四、試合の準備

儲愈々是から本文に着手する事にしやう、今爰に甲組と乙組との試合を開始するものと假定したならば先づ最初圖に示した如く一定の寸法に石灰で線を引いたり、本壘以下の三個所に壘を置いたり本壘の後ろに網を張つたりする。

斯して愈々準備が出来上つたら、兩軍は本壘の前に左右に整列して一禮する（是は昨年の夏、大阪朝日新聞社主催全國中學校



野球優勝試合のあつた時、始めて行はれた事であるが、誠に武士道に適した作法であるから、恐らく今後我國野球界に於ける一の不文法的慣例となつて行はれる事であらうと思ふから、特に爰に記したものである。是を終つたら審判官立會の上で（審判官の事は後で詳しく説明する）抽籤によつて先攻即ち何方が最初攻撃軍になるかを定める、其結果乙軍の方が先攻に決つたとすれば、甲軍は各自持場の守備に就き、乙軍は見物人の前方の休憩所に休憩して居て、一人宛順次に打撃を以て打者ボックスへ現はれ、いざ來れと計りに投手の投げる球を打たうと身構へする、そこで戦機熟せりと見て取つた審判官は一聲高く試

合開始と命令を下すのである。

### 五、試合開始

斯うして愈々戦端の幕は開かれるのである、今か今かと待構へて居た見物人は、先を合圖に拍手大喝采すると云ふ所、本物の戦争ならば攻撃も守備も双方から盛んに砲撃して攻めたり攻められたりする處だが、野球技は前にも述べた通り守備は守備、攻撃は攻撃とちやんと定つて居る、而し投手の投げる球を打者が打ちさへすれば、夫れでもう攻撃の役目を果して終つたものかと云へば、却々そんな簡單なものではない、そこが大いに趣



味のある所以で、球を打つと云ふ事は大いに敵軍の陣容を亂して、一舉に壘を陥れて本壘に凱旋即ち生還しやうとする第一砲に過ぎない、だから打者は先づ第一に球を打つや否や、驀然にファーストベースを越えて突進しなくてはならぬ。

### 六、打者と投手

併しながら投手が打者に對して球を投げるのにも、打者が其球を打つものにも、一定した規則があつて無茶苦茶に投球したり打球したりする事は出来ない、打者が球を打つて一壘へ突進する権利を得る爲め、言ひ換へれば打者と云ふ名稱から脱して、

走者となる資格を得る條件としては、

- 一 打つた球が前圖に示せる方角即ちA B、D Eの線上か又は其内側即ち内野なる事。
- 二 若し内野以外の場合ならばA B、D E線のB E端を引延した其内側即ち外野なる事、其内側でさへあれば幾ら遠方に打飛ばしても差問へない、否寧ろ遠方に打つ程がよいのである。

即ち(一)(二)の場所へ打つた時は走者の資格を得る事が出来るが若し(一)(二)以外の場所へ打つた時は、幾らよく打つても無効で打直しをさせられる、是は何が故に規定されてあるか云



へば、僅か九人の守備者で無制限に廣い區域を逆も防ぎ切れないからで、云は、守備軍に取つて有利な規定である、其代り守備軍の投手も無茶な打難い球を打者に投げる事は出来ない。

### 七、球の投げ方

即ち投手の投げた球は本壘の眞上を通過して、打者の肩より高からず膝より低からぬものであらねばならぬ、若し此條件を具備せぬ球ならば、打者は打棒を持つた儘ツンと澄し込んで居ればよい、是が四度重なれば四球と云つて打者は悠々一壘へ行つて是を占領する権利を興へられる、又投手の投げた球が打者の

身體にでも衣服にでも觸れた場合は、死球と云つて是亦四球同様の権利が得られる、此四球や死球は投手としての不名譽此上もない事であるから、投手は成丈け規定の球を投げやうとする、此規定通りの球ならばストライクと呼び、規定に反した球ならばボールと呼ぶのである、即ちストライクとは打つ事の出来る球、ボールとは打つ事の出来ない球と云ふ意味である、そこで一人の打者に對してはストライクを三度與へればよい、然るにストライク三度も投げて貰ひながら、尙且打者がよく打たない時は、當然打者が悪いのであるから打者は三振死になる又投手がボールを投げてても打者が打つた時は、當れば夫れでよ



いが當らなく共、それは打つた方が悪いのであるから、ストライクと宣告されて終ふ、尙是以外にストライクと宣告される場合が二つある、一つは前に云つた方角の線以外に打つた場合と一つは例へ球が當らなくとも打棒に掠れて、鋭く後方に逸れ捕手の手に入つた球とが矢張りストライクとなる。

### 八、球の打ち方

そこで打者が規定の場所(一)(二)に打つた時は、是を稱してフエーヤヒットと呼び、規定以外の場所へ打つた時はフォールヒットと呼び、フォールヒットの中球が後方に逸れて捕手の手に

收つた時は、是を稱して、フォールチップと呼ぶのである、併しながらフエーヤヒットの中にも三種あつて、憂と打つた球が高く空中に飛んだ時は飛球と云ひ、矢の如くに風を切つて宙を來る球を直球と云ひ、地を轉々して來る球を匍球(俗にゴロ)と云ふのである。

そこで若し打者が最初はストライクをよく打たず、二度目はボールにも拘らず打つてフォールになる共、夫れは二ストライクとなつて、ストライクはもう一つしか残らなくなる、雖然又もや打つた球がフォールになつた場合は、正打球を打つか三振死になるか四球を得るか迄何遍でも打直しをさせられる、つまり



二ストライク後のフォールはロハとなる譯である、尙ツースト  
ライク後のチップはストライクに算入されるから三振死になる  
のである。

要之打者は投手の投げる球を刮目してストライクをボール  
とを能く見分け、與へられたるストライク三度の中、一度曇と  
フェーヤを打つか、若しストライクを投げない時は四球によつ  
て一壘を安全に占領するか、此二つの中一つさへ遂げれば打  
者としての目的は達せられたのである、又投手は一軍の運命を  
背負うて起つ最も重い任務のある役であるから、捕手とよく相  
談して打者の癖などを看破し、四球にならない範圍内に於て、

ボールとストライクを突混せて投げ、或は魔球と云つて球が本  
壘の上に来て、急に左右に曲つたり上下に騰つたり落ちたり  
する投球をして、打者を迷はせフェーヤを打たせすと、三振死  
にしたならば投手としての任務を完うしたものである。

### 九、守備軍の活動

打者が此處で三振死になつたとすれば夫迄だが、若しフェーヤ  
を打てば一壘へ突進する、今迄は投手の投げた球を捕手が受  
取つて更に夫れを投手に送り返し、斯うして是を幾度も繰返し  
て二人が活動するに止まり、他の七人は腕を扼して待構へ



て居たのであつたが、是からは全守備軍の活動が始めて起るの  
だ、打者の打つた球が地を噛み砂を蹴つて、手負猪の如くに飛  
んで来る奴を、一番近い野手が捕へて是を一塁手に投げる、首  
尾よく一塁手の手に收つた時（此場合一塁手の足が塁に觸れて  
居らねば無効となる）走者が未だ塁に足を入れなかつたならば  
走者は勅殺となるのだ、若し球が一塁手の手に收るよりも早く  
走者が到達した時は走者は生である、併しながら若し打つた球  
が飛球か直球かで未だ一度も地につかぬ前、野手の手に捕つた  
場合は刺殺となるのだから、此場合は別に一塁に投じるに及  
ばない、つまり一塁に投じて刺殺にしようとする場合は、匍

球の時か又は飛球や直球を受損じた時に限られる。  
尙フォールの場合に未だ地につかないのを野手に受けられたら  
打者は刺殺になるのである。

十、盗塁

一 塁を正打球か四球か死球かで、兎に角無事占領したと  
すれば、走者は更に敵の油断や好機會を見出して、二塁を奪  
ふべく盗塁を試みねばならないだから、球を保持して居る野  
手が油断をして居る間でもよければ、次の打者がフェーヤを打  
つて呉れるのを待つて居ても宜い、又守備軍も是を刺殺にしや



うとして注意と警戒を怠らない、投手は絶へず眼を配り又は他の野手の合圖によつて、少しでも走者が壘を離れて居れば（走者が壘に居る間は云はい其所は自己の金城鐵壁であるから決して球を着けられて刺殺にされる憂ひはない）牽制球と云つて一壘手に球を送つて、走者を刺殺にしやうとする、だから走者が二壘に盗壘を敢行するのは、多くの場合投手が球を打者へ投げた隙に乗じてやる、若し此時打者が球を打てば仕方がないが然らざる時は捕手は球を捕るや否や、遠く二十間以上彼方なる二壘手へ球を送つて、走者を刺殺にさせねばならぬ、是は一に投球の速度の遅速如何による、だから捕手は野手の中でも最も

肩の強いものを選ぶのだ、一壘では走者が来る迄に球を手に收めさへすれば刺殺となつたが、是からは必ず走者へ球を觸けねばならぬ。又走者は盗壘を企て、球を觸けられる恐れがあれば、途中で元の壘へ引返しても差向へない、斯して二壘への盗壘は成功する事があるが、未だ三壘や本壘を陥れない事には貴重なる一點を得られない、と云つて此二關門への盗壘は實に難事である、何故なれば三壘と捕手間の距離は近くなるし、加之に投手の便利もよくなるからである、何分走者が壘へ到達するのと壘手が球を觸けるのとは間一髪の争ひだから相手の苦心は實に容易なものでない、又若し味方に刺殺が二人出來た



時は、走者は少々位な危険は冒しても本壘を突破せねばならぬ  
 何故なれば次の打者が三振死か又は正打球を打つても一壘へ着  
 く迄に刺殺になつた場合は、刺殺が合計三人になつて守備軍と  
 交代しなくてはならぬから、例へ其球に送られて本壘に歸着す  
 るとも、夫は無効となる而已ならず現在壘に残つて居る走者は  
 残壘と云つて悉く殉死になつて終うからである、だから二人  
 刺殺後の場合は走者は冒險して本壘へ疾走する、此場合よく抉  
 撃される事がある、夫れは斯く見て取つた捕手は直に球を保  
 持して本壘を守る、そこで走者はこは叶はじと引返さうとする  
 から、捕手は直に三壘手へ球を送る、そこで走者は三壘へ歸る

事が出来ないから又もや本壘へ走る、三壘手は捕手へ直に球を  
 返す、そこで走者は再び三壘へ引返さうとするから、捕手は又  
 々球を三壘手へ送る、斯うして幾度も繰返す中に兩方からジリ  
 々攻撃せて、遂々刺殺にして終うのである。  
 要之、走者は何時盗壘しても宜いが、野手から球を觸けられ  
 ないやう、用心せねばならぬ、球を觸けられたが最後刺殺とな  
 つて終ふ、但し、  
 捕手の捕損じた球(フォールは此限りにあらず)が後ろの網に  
 當つて即ち逸球となつた場合。  
 は走者は大手を振つて何等犯さるゝ事なく次の壘を安全に占領



する事が出来る、又、

次の打者が四球若しくは死球によつて當然一壘を占領する権利を得た場合。

は其走者の爲めに壘を明渡す必要があるから、次の壘へ行く事が出来る、雖然明渡す必要のない走者は其儘である。

又次の打者の打つた球がフォールや飛球になつた場合、走者が壘を離れて居た時は一應壘へ歸らねばならぬ。

一度に何壘奪つても勝手たる可しだが、自己若しくは次の打者が打つた球が、遠く野手の頭上を飛越した時、或は野手が球を逸して周章狼狽を極めて居る時などは、一舉に二壘位奪取する事

が出来ぬものでもない、若夫れ自己の打球に送られて、一舉に本壘迄無事生還したならば、是を本壘打と唱へ、其試合中の殊勳者として稱賛せられるのである。

### 十一、打撃順と満壘

攻撃軍の打者が走者となるか又は刺殺となつた場合は、既定の順番通り次の打者が出て攻撃するのである、此打撃順は断じて中途に於て變更する事を許さない、何故かと云へば一二三壘共走者が居る場合(是を満壘と云ふ)などは、攻撃軍に取つては又と再び得難い好機會が到来したのであるから、此機を逸せず



是非共走者を生還させやうと努力する、又守備軍に於ても由々  
しき大事な場合であるから、己れ一人でも生還させて堪るもの  
かと懸命防戦に努力する、此努力と努力とが打ッ突つて、爰に  
大激戦の火花を散らす幕が演ぜられる、此場合が試合中最も緊  
張した時で、観衆も此勝負や如何にと片唾を嚙んで見物する所  
である、此秋に當つて味方の走者を殺すも活かすも、一に次の  
打者の手中にある事であるから、其任務や實に重且大なりでは  
責任打者と稱へる、然るに若し此打者が打棒の利かぬ者であ  
つたならば、可惜好機会を逸して三振死でもしたとすれば、一  
人も生還させる事は出来ない、是に反して此打者が打棒の能く

利く者であつたならば、憂と熱球を遠く打飛ばして一舉に二人  
位生還させる事が出来ないものでもない、サア斯うなると攻撃  
軍の最負連は狂喜して聲の限りにさんざめき、味方の勇氣頓に  
百倍するに引替へ、敵は色を失つて夫れからと云うものは、守  
備も亂れる打棒も利かなくなると云ふ風には原因となつて遂  
に敗北の非運に陥る事は決して尠くない、斯うした理由がある  
から中途で打撃順を變へてはいけなないと云ふ八釜しい規則が  
あるのだ、そこで九人は一定の順番通りに出て打たなければな  
らぬ。



### 十二、攻撃と守備との交代

併しながら何時迄も一方にのみ攻撃を繼續させる時は、投手や捕手を非常に疲れさすから、或時期を見て攻守地を替へさせる必要がある、そこで守備軍が敵の走者でも打者でも、三人突伏せなければ、攻撃軍は攻撃の資格を失つて交代しなくてはならぬ、今迄守備軍であつた方は新たに攻撃軍になり、攻撃軍であつた方は守備軍となるのである。

そして最初の攻撃軍即ち先攻側が攻撃して居る間を、第何回目の表と云ひ、守備に就いて居る間を、第何回目の裏と云ふので

### 十三、試合終了

斯した風に攻撃側に刺殺が三人出来た度毎に交代して、各九回づゝ行へば試合は終了するのである、そして生還者即ち得点を計算(試合経過記録帳と云へる帳面へ一々試合の経過を詳細に記入する事になつて居る)として見て、点数の多い方が月桂冠を頂く事になるのである、例へば乙組が三點で甲組が五點あつたすれば、是を五對三と稱して甲組の勝利に歸するのである。若し九回を終つても尙兩軍に得點がなかつたり、又同點であつた

ある。



場合は、兩軍協議の上もう何回行らうとか、又は何方でも先きに得点のある迄続けやうとか決める事も出来る、是を稱へて補回試合と云ふのである、其他天災地變若くは止むを得ざる事情の爲めに、四回以下で中止した場合は、是を無効試合と云つて無勝負となる、又五回以上で同上の理由にて中止した場合は、準試合と云つて得点の多い方が勝となり、若し同點であつた場合は撤回試合と云つて無勝負となるのである。

#### 十四、審判官

審判官の事は後から試明すると云つたが、角力に行司のある如

く野球にも審判官がなくてはならぬ、前述のセーフやアウトを宣告するのも、ストライクやボールやフェーヤなどを鑑別するのも皆審判官の役目である、加之試合中一切の出来事に對して裁決権を有し、競技者の除名試合中止又は繼續等、皆審判官の意志によつて決せられるのである、だから「審判は最終なり」で法庭に於ける裁判長の宣告と同一で、少々の見損ひや不平があつても選手は絶対に其判決や命令に服従しなくてはならぬ、かの捕手の背後に捕手同様の扮装で、投手の打者に投げる球をボールとかストライクとか宣告して居るのが球審判官で、壘に於ける生死を鑑別して生とか死とか宣告して居るのが壘審判官



である。

十五、附 記

尙是以外に書けば六ヶ敷い規則が山程あつて、説明が更に複雑になり、却つて解らなくなつて終ふから、一應此處で切上げる事にする、又幾ら委しい説明をした處で、未だ餘り見ない人には解り兼ねる、矢張り百聞は一見に如かずで、現場を見ては本書を読み、彼と是とを對照して頂いたならば、直ちに了解し得るやうになるであらうと思ふ、どうか皆さんが盛んに野球を看に行かれん事を切望して止まない次第であります。そして度を

重ねるに従ひ益々興味が湧いて面白くなり、遂には肌へを刺す寒風も身を焼く炎熱も、乃至は晝飯の一度位食へずとも、一向感じなくなる事屹度請合で、太鼓の如き判を捺して保證して置くものである。

十六、野球用語

競技の事に關しては難産ながらも書終つたが、尙爰に競技を観る上に於て逸す可らざる問題が残つて居る、夫れは野球に使用して居る術語や用語である、やれドロップを投げたとかツーダワンになつたとか、エラーをやらかしたとか云ふのがそれで、



例へ英語に精通したものでも一寸頭を傾げざるを得ない、況んや是を知らない者にあつては何が何やら薩張り判断がつかない宛然外國の演劇でも観て居るようで一方向興味もなければ、又幾ら熱心に観ても遂に競技の何たるかを了解する事が出来ない、だから序に是等の用語も其意義をよく辨へて居て頂きたい。今左に普通使用して居る重なるものを列挙して、不徹底ながらも解釋を下して見やう。

イロハ順

( 1 )

イニング

(攻撃回) 攻撃軍が攻撃を開始してからアウトが三人出来た爲めに攻撃の資格を失つて、守備軍と交代する迄の期間を云ふ。

イーズイ、ボール

捕り易い球又は打ち易い球と云ふ意味で野手や打者を激励する語。

インドロツプ

投手の投げた球が本壘の真上に來るや否や急に方向を轉換して、打者向つて曲りながら落下する球のこと。

インカーフ

投手の投げた球が本壘の真上に來るや否や急に方向を轉換して、打者向つて曲る球のこと。



インターフェアヤー

(妨害)

捕手が打者へ對して打球の妨害したり、野手が走者へ對して走塁の妨害したり、又は打者が捕手へ對して捕球の妨害したり、走者が野手へ對して守備動作を妨害したりする場合のこと前者二つは次の塁へ進塁權を得、後者二つは自身アウトになる。

インフイルド

(内野)

一塁、二塁、三塁、本塁の各間に引かれた線の内部(略圖参照)即ち方角内のこと。

インフイルド、フライ

(内野飛球)

打者が内野に打つた飛球のこと。

インフイルド、ヒット

打者が内野に打つたセーフヒットのこと。

インフイルダー

(内野手)

内野を準備して居る野手のこと即ち投手、捕手、一塁手、二塁手、三塁手、遊撃手の總稱。

インコーナー

投手の投げた球が本塁の眞上に来るや否や急に方向を轉換して、打者向つて塁の隅を曲る球のこと。

インサイド、ワーク

(連絡)

野手の間に於ける連絡のこと

(ロ)

ロング、バウンド

野手の前に来て高く飛上つた球のこと。

ロング、ヒット

二塁打、三塁打、本塁打等のヒットを指し



ていふ。

(ハ)

バーサス

(對)

甲組對乙組の試合など云ふ對のこと。

バーセントリージ

守備、打撃などの割合のこと。

バント

多くの場合自己が犠牲となつて走者を次の塁へ送る

爲め、軽くバットに球を當て、打つこと。

ハンドル

(轉送)

野手から野手の手へ球を送ること。

バンド、エンド、ラン

今度は是非バンドするから次の塁へ

行けよと、打者と走者が信號をして置いて、打者は必らず

バンドする、走者は投手の投球動作すると同時に次塁へ幕然に突進する場合のこと此謀計が齟齬すると大變で走者はアウトしられる事がある、多くの場合走者が三塁に居る時に行はれる。

ハンフル

野手が一旦球を受止めて居ながら、ポテンと取落

したこと。

バット

(打棒)

球を打つのに用ゆる棒のこと(第三章参照)

バッター

(打者)

打者ボックスで球を打つ者のこと。

バッター、ボックス

打者が球を打つ定位置のこと(第二章

参照)

バッター、テーク、ケーヤ

能く注意して球を打てよと打者



を激励する語。

バッター、アウト

(打者刺殺) フォールを野手に受けられ

たり、捕手の妨害したり、ストライクを三度打たなかつた  
りした場合、打者がアウトとなること。

バッター、アツブ

オールリデーと同じ意味。

バッテリ

投手と捕者とを指して云ふ。

バッテリ、エラー

(投捕手失策) 投手と捕手とが失策し

たこと。

バッテング

(打撃) 即ち攻撃のこと。

バッテング、オーダー

(打撃順) 打者が順次一人宛打球す

る順番のこと。

バースボール

(逸球) 捕手が球を捕損じて後ろの網に當つ

た時のこと。ツットボールとも云ふ。

(木)

ポジション

(守備位置) 或は投手とが中堅手とか云ふ如く

其定められたる役割のこと。

ボール

(球) 打つたり投げたりする球のこと、競技上最も

必要の物である(第三章参照)

ボール

投手の投げた球でストライクに違反した球、即ち打

者の肩より高く膝より低く、或は本塁の上を通過しなかつ



た球のこと。

**ボールロー**

投手の投げたボールで低かつた球のこと。

**ボールハイ**

投手の投げたボールで高かつた球のこと。

**ボールニヤ**

投手の投げたボールでホームプレートと打者の間を通過した球のこと。

**ボールファ**

投手の投げたボールで打者の面して居るホームプレートに向側を通過した球のこと。

**ボール、ノット、インプレー**

(試合中止球) 球がフォールになつたり観衆の中へ這入つたり、投手がボークしたり、野手又は打者に妨害行為のあつた時などは、タイムを宣告

せずして直に試合中止に入る時のこと。

**ボール、アンバイヤ**

(球審判官) 捕手の後ろに居つて投手の打者に投げる球を鑑別する役。(第十三章参照)

**ホームイン**

(生還) 一塁、二塁、三塁と陥れて無事本塁に歸省したこと此場合一點を與へられる。

**ホームベース**

(本塁) ホームプレートと同じこと(略圖参照)

**ホームラン**

(本塁打) 自己の打球に送られて一舉に本塁迄生還したこと。

**ボーク**

(投手の不正投球) 投手が打者へ投げる風をして投げなかつたり、塁の方向へ踏出さずして塁へ投手したり、又



は投手板へ足を乗せずして打者へ投球したり、或は捕手が  
定位置から出て居る際打者へ投球したりするを、此場合走  
者は次の塁へ安全に進塁する事が出来る。

ホーム、ブレート

ホームベースと同じこと。

ボデイスウイング

投手が投球動作する時の身振りのこと。

ボスワン

投手が打者へ投げた球で、ストライクが一度、ボ  
ールが一度あつた場合、即ち両方とも一度宛であると云ふ

意味。

ボスツー

投手が打者へ投げた球でストライクが二度、ボ  
ールが二度あつた場合、即ち両方とも二度宛であると云ふ意

味。

ボックス

打者ボックスの略。

ホック、スライディング

走者が塁へ滑込む際、左へ滑ると見  
せて右へ滑込み、右へ滑ると見せて左へ滑込むこと。

( へ )

ヘビーバッター

(強打者) 打棒がよく利いて球を上手に打  
つ打者のこと。

ベース

(塁) 一塁、二塁、三塁等の塁を云ふ。(第三  
章参照)



ベース、スライディング

(滑込み) 走者が盗塁する際、塁

手へ球をつけられない為め滑込むこと。

ベース、ランニング

(走塁) 走者が塁から塁を走ること。

ベースマン

(塁手) 塁を守つて居る塁手のこと、一塁手、

二塁手、三塁手の総稱。

ベース、アンパイヤ

(塁審判官) 走者の生死を鑑別する役

(第十三章参照)

(ト)

ドロツブ

投手の投げた球が本塁の真上に来るや否や急に方

向を轉換して、曲りながら落下する球のこと。

ترونゲーム

(撤回試合) 五回以上の試合を完了した後

於て天災地變若くは止むを得ざる事情の爲めに停止した試

合のこと (第十二章参照)

トンネル、ボール

野手が球を逸して勝の間からトンネルさ

して終ふこと。

トリツグ

(計略) 野手の間に使用される計略のこと。

(チ)

チエンチ

(交代) 攻撃と守備と交代すること。



チャンピオン

選手のこと。

(ル)

ルール

(野球規則) 此規則の下に競技するのである。

ルール、フック

(野球規則書) 野球規則の書いてある本、

我國では直木松太郎氏解説現行野球規則が使用されて居る  
是を熟讀せば多大な参考となるから敢て一本を推薦する、  
定價五十錢。

(ワ)

ワイルド

(暴球) 野手が投げた球で高かつたり低かつたり  
して、到底捕る事の出来なかつた球のこと。

ワイルド、ピッチ

(投手暴球) 投手が打者へ投げた球で捕  
手の普通動作を以て捕る事が出来ず後ろの網に當つた球の  
こと。

此場合走者は安全に次の壘へ行ける。

ワンボール

投手が打者へ投げた球でボールが始めて出た場  
合のこと。

ワンダウン

アウトが一人出来たこと。

ワン、ストライク

投手が打者へ投げた球でストライクが始



ワシアウト ワシアウトと同じ意味。

(カ)

カーブ 投手の投げた球が本壘の真上に来るや否や急に方向を轉換して曲る球のこと。

カウント 今カウントは幾らかと聞けばツーダウンでノーボール、ツーストライクだと云ふ如く数の事を云ふ。

(タ)

タイム (試合停止) 打者がフォールを打つたり、投手がボールしたり、雨が降つたりする場合一寸試合停止する時審判官の宣告する語。

タイムリー、ヒット 走者が打球に送られて安全に次の壘を奪つた球のこと。

ダイヤモンド (方角) 一壘、二壘、三壘、本壘間に引ける線内即ち方角内のこと。(略圖参照)

タイム、アット、バット (打撃時間) 打者が打者ボックスに起つてからアウト若くは、走者となる迄の期間を云ふ。

ダルゲーム 興味のない平凡な試合のこと。



ダウンカーフ

ドロップの異名。

ダブルプレー

投手に返す迄に球を転送して二人アウトにした場合を云ふ。

ダフル、ステール

一度に二人の走者がトリックして次の塁を盗んだ事を云ふ。

(レ)

レフト、オン、ベース

スタンディングと同じ意味。

レフト、フ井ルダー

左翼手のこと。

レギュレーション、ゲーム

(正式試合) 正當に事故なくし

て終つた試合のこと。

レイズ、カーフ

投手の投げた球が本塁の真上に來るや否や急に方向を轉換して上へあがる球をこと、アップカーフとも云ふ。

(ツ)

ツーボール

投手が打者へ投げた球で二度目に出たボールのこと。

ツーベース、ヒット

(二塁打) 自己の打球に送られて一塁に二塁を奪つた球のこと。



ツリブル、ブレイ

にしたこと。

投手に返す迄に球を轉送して三人アウト

ツリブル、ステール

同時に三人の走者が盗塁したこと。

ツーダウン

アウトが二人出来たこと。

ツーゲツト

一 塁でアウトにしなかつた場合二 塁でアウトにして見せると云ふ語。

ツアアウト

ツーダウンと同じ意味。

ツーストライク

投手が打者へ投げた球でストライクが二度出た場合のこと。

( ネ )

ネバー、マインド

選手が失策して同僚に申譯なしと失望して居る時激勵するに用ゆる語、略してネバーと云つて終ふ心配する勿れと云ふ意味。

ネット

(網) 球が遠くへ飛ぶを防ぐ爲め捕手の後ろに張る網のこと。(第三章参照)

ネットボール

バツスボールのこと。

ネツキスト、ボール

(代用球) 球がフォールグラウンド等へ出て試合が遅延する時は審判官が宣告して代りの球で試



合を繼續する。

ネツキスト、バッター

(次の打者) 打者が走者となるか又はアウトとなつた場合、打撃順に従つて出る打者のこと。

(ラ)

ライト、フ井ルダー

左翼手のこと。

ライナー

(直球)

打者の打つた球で矢の如く風を切つて、

飛球と捕球との中間を真直に飛ぶ球のことデレクトとも云ふ。

ライン

(線)

略圖の通り規定の寸法に競技場へ試合のある

時、少し溶した石灰で引く線のこと。

ライン、アツブ

バッティング、オーダーと同じ意味。

ラン

得點のこと。

ランナー

(走者)

壘から壘を走る走者のこと。

ウイーク、バッター

(弱打者)

打棒が利かなくて球をよく

打たない打者のこと。

(ウ)

ウイズ、バッター

バッター、アツブと同じ意味。

ウエート、フオア

能く球を擇んで亂打するなく四球を待て



よとの意味で、打者に警戒を與へる語。

(ノ)

ノーボール 投手が打者へ投げた球で未だストライクばかりでボールのない場合のこと。

ノーゲーム (無効試合) 兩軍とも各五回の攻撃を終らぬ中、天災地變若くは止むを得ざる事情の爲めに停止した試合のこと。(第十二章参照)

ノーダウン アウトが未だ一人もない場合のこと。

ノータイム (繼續) 事故の爲めに一寸中止して居た試合を再び繼續する時審判官の宣告する語。

ノーアウト ノーダウンと同じ意味。

ノーストライク 投手が打者へ投げた球で未だストライクのない場合のこと。

ノツカー ノックを打つ者のこと。

ノック 練習する時敵に攻撃せられたるものと假定して守備に就き順序一人宛球を打つこと。

(オ)

オーバー、レフト 打者の打つた球が左翼手の頭上を越した  
こと、以下是に準しオーバー、センターと云へば中堅手を越したこと。



オーバー、セツダー 選手の着用する毛糸製のシャツ。  
オールレデー バッター、アツプと同じ意味。  
オール、テーク、ケーヤ 全軍能く守備して洩す勿れと、野  
手を激闘する語。

(ク)

グローブ (手套) 野手の用ゆる手套のこと。(第三照参章)  
クロスゲーム ダルゲームの反対で非常に興味のある緊張し  
た試合のこと。  
クロス、ファイヤー (十字火) 投手がプレートの右側若く  
は左側から投球すること即ち右側からの時は球が打者反対

の方向は行き、左側からの時は打者向つて行くから此両度  
で本壘の上に十字形になるから斯くは名づけたのである。  
グラウンダー (匍球) 打者の打つた球で地上を轉々して行  
く球、ゴロとも云ふ。  
グラウンド (競技場) 試合をする場所のこと。(略圖参照)  
グラウンド、ルール (走壘規則) 競技場の地勢如何によつ  
て、両軍協議の上特別に定める規則。

(マ)

マネヂャー (監督) 選手及び野球に關する一切の事を掌る



役。

マスク

照)

(面) 捕手及び球審判官の顔に被るもの。(第三章参

(ケ)

ゲーム

試合のこと。

ゲーム、セツト

試合終了の事。

(フ)

プロフェシヨナル

野球の職業として居る者のこと。

プロテクター

(胸當) 捕手と球審判官の胸に當てるもの。

(第三章参照)

フロツク、ボール

打者が打ち若くは野手の投じた球が選手以外の者の手に觸れ又は支へられた場合の事で、此場合走者は投手が投手板で球を受取る迄は何塁でも進む事が出来る。

フリーバツテング

球を打つ練習のこと。

フルベース

(満塁) 一 塁、二 塁、三 塁共走者が居

る場合のこと。

プレー

(試合開始) 試合を始める時審判官の宣告する語。



プレート

投手板の略。

プレーヤー

選手のこと。

プレーヤース、ベンチ

選手用腰掛のこと。

フライ

(飛球) 打者の打った球で高く空中を飛んだ球のこと。

フライアウト

飛球を野手に受止められて打者がアウトになつたこと。

ブラクティス

練習のこと。

フ井ルデング

守備のこと。

フ井ルデング、エラー

野手の失策したこと。

フォアボール

(四球) 投手が打者へ投げた球でボールが四度出たこと、此場合打者は走者となつて一塁を占領する事が出来る。

フォール

フォール、ヒットの略。

フォール、チツブ

フォールの中で鋭く後方に逸れて捕手に捕られた球のこと。

フォール、ヒット

打者の打った球で略圖A B、D E線の外側即ちフォール、グラウンドへ打った球のこと。

フォール、グラウンド

略圖A B、D E線の外側のこと。

フォール、フライ

フォールの飛球。



フォーフェテツド、ゲーム

(放棄試合)

一方の組が審判官

の命に服従せざりし場合審判官が是を宣告する語。此場合は他の一方へ勝利を與へる。

フォース、アウト

打者が走者となつて一壘へ突進すれば

一壘に居た走者は二壘へ行かねばならぬ此場合野手が二壘手へ球を轉送して未だ走者が到達しなかつた時は其走者はアウトとなる事を云ふ。

フェーヤ、ヒツト

(正打球)

フェーヤ、グラウンド内へ打

つた球のこと。

フェーヤ、グラウンド

略圖

A B、D E線を延長した内側の

ファースト、ベースマン

一壘手のこと。

ファースト、ベース

一壘手のこと。

ファースト、ミット

一壘手専用の手袋。(第三章参照)

( コ )

コーチ

選手を指導すること。

コーチヤ

(走者指揮者)

コーチヤース、ライン。(第二章

参照) に起つて走者を指揮する者のこと。

コールド、ゲーム

(準試合)

両方共五回以上の攻撃を終つ



その後、天災地變苦くは止むを得ざる事情の爲めに停止した試合のこと(第十二章参照)

ゴロ グラウンダーのこと。

コーナー、ボール 塁の端を通過した球のこと。

コントロール 投手がストライクなりとボールなりと自由自在に投げ得ること。

(エ)

エキサイトング、ゲーム 互に仇敵視して殺氣の満ちた試合のこと。

エキストラライニング、ゲーム

(補回試合) 両方共九回宛攻

撃を終つても尙勝負のつかない場合、一方が勝つ迄繼續してやる試合のこと。(第十二章参照)

エラー (失策) 野手が失策したこと。

(テ)

チーム 野球團のこと。

チームワーク (連絡) 選手の間に行はれる連絡のこと。

デレクト ライナーのこと。

デッドボール (死球) 投手の投げた球が打者の身體若くは



衣服に觸れたこと、此場合打者は走者となつて一塁を占領する。

**チキサスリーガー** 打者の打つた球でやつと塁手の頭を越すか越さぬか位なヒヨロ／＼球でセーフヒットのこと。

(ア)

**アルファ** 後から攻撃した組八回の得点が先攻組九回の得点より多き場合は既に勝負が明かで、別に後から攻撃した組が九回目をやるに及ばないから是で終る時用ゆる語。

**アウト** (刺殺) 打者がストライクを三度打たなかつた時。捕手を妨害した時、直球、飛球、フォール等の地につかな

い中堅手に受止められた時、フェーヤを打つても一塁へ達する迄に球を塁手が受取つた時、又走者が塁と塁との間で球を着けられた時、野手を妨害した時等は孰れもアウトの宣告を受ける。

**アウト、ドロツフ** 投手の投げた球が本塁の真上に來るや否や急に方向を轉換して、打者避けて曲りながら落下する球のこと。

**アウト、カーフ** 投手の投げた球が本塁の真上に來るや否や急に方向を轉換し、打者避けて曲る球のこと。

**アウト、フ井ルド** (外野) 略圖A B、D E線を引延した内



部で方角より外部を云ふ。

アウト、フ井ルター

(外野手) 外野を守つて居る野手即ち

左翼手、中堅手、右翼手の總稱。

アウト、コーナー

投手の投げた球が本壘の真上に來るや否

や急に方向を轉換し、打者避けて壘の端を曲る球のこと。

アンバイヤ

審判官のこと。(第十三章参照)

アンドランス

失策によらずして立派に得た點のこと。

アンダースロー

投手が球を下から投げること。

アットバット

(打撃數) 打者となつて打撃した回數を云ふ

但し四球、死球、三振死、犠牲球等は此中に數へぬ。

アツタツク、シヨート

シヨートに向けて打てよと打者を激

刺する語。

アツブカーフ

投手の投げた球が本壘の真上に來るや否や急

に方向を轉換して上へあがる球のこと。

アナザー、ボール

チツキスト、ボールと同じ意味。

( サ )

サイン

(信號) 守備軍の間に此信號を敵に悟られぬやうに

使用する。

サイド、アウト

アウトが三人出來たこと。



サイド、スロー

投手が球を横から投げること。

サイド、ベース

三塁のこと。(略圖参照)

サイド、ベースマン

三塁手のこと。

サイド、ゴロ

サイドベース迄行つたゴロのこと。

サア

補缺選手のこと。

サクリフアイズ、ヒット

(犠牲球) バントは始めから自己

が犠牲となる目的で打つのであるが、是は普通の打球で一  
塁へ達する迄に自己はアウトされる共走者を次の塁へ送つ  
た場合を云ふ。

キャッチ、ボール

球を投げて捕合ひの稽古すること。

キャッチャー

捕手のこと。

キャッチャース、ミット

捕手専用の手袋。(第三章参照)

キャプテン

選手の頭で選手は絶対に是の命令に服従せね  
ばならぬ。

(キ)

(ユ)

ユニフォーム

(制服) 選手の着用する服装、チーム毎に



一定ていされてある。

(ニ)

ミス エラーと同じやうな意味。

ミット (手袋) 捕手、一塁手等の使用するもの。

(シ)

シート ボポジションと同じ意味。

シートノック 各野手を位置に就かして置いて順々にノック

して其球を捕らせる練習のこと。

ショート、バウンド

のこと。

野手の前へ来て小さく跳上つた球のこと。

ショート、ゴロ ショートストツプ 遊撃手に捕られたゴロのこと。

ショート、ストツプ 遊撃手のこと。

シューズ 選手用の靴、成丈け柔い軽い皮で製したもの。

ジャンプ、ボール 躍行しつゝ行くカーブのこと。

シングル、ヒット 自己の打球によつて一塁迄占領したヒ

ットのこと。

(ヒ)



**ヒット** 自己の打球によつて一壘以上占領したヒットのこと。

**ヒット、バイ、ピッチャー** デッドボールのこと。

**ヒット、エンド、ラン** バント、エンド、ランと同じやうな

意味で只バントするのとヒットするのとの相違がある計りである。

**ピッチャー** 投手のこと、守備軍中最も重い任務である。

**ピッチャー、ゴロ** 投手に捕られたゴロのこと。

**ピッチャース、プレート** (投手板) 單にプレートとも云ふ

(第二章参照)

(モ)

**モーション** 動作のこと。

(セ)

**セカンド、ゴロ** 打者の打つたゴロが二壘手へ捕られたこと

**セカンド、ベース** 二壘のこと。(略圖参照)

**セカンド、ベースマン** 二壘手のこと。

**セームタイム** (同時) 壘手が球を手にした時と走者が壘へ到着した時と同時であつた場合のこと。



セーフ

走者がアウトから免れた場合のこと。

セーフ、ヒット

(安全球)

打者が自己の打球に送られて一塁を無事占領したヒットのこと。

センター、フilderター

中堅手のこと。

セツト

ゲーム、セツトのこと。

(ス)

スローボール

投手が打者へ投げた球で回転の鈍い速度の遅い球のこと。

スロー、ドロップ

球の速度の遅いドロップのこと。

スパイク

(金具)

靴裏に着ける金具のこと。(第三章参照)

ストレート、ボール

投手が打者へ投げた球で真直ぐな球のこと。

ストールン、ベース

(盗塁)

打球によらずして走者が敵の油断に乗じて次の塁を奪ったこと。

ストライク

投手が打者へ投げた球で肩より高からず膝より低からず本塁の上を通過した球のこと。

ストラック、アウト

(三振死)

ストライクを三度共打たなかつた爲めアウトになつたこと。

スリーバント、アウト

三度目のストライクにバントを遺損



つてアウトとなつたこと。

**スリーボール** 投手が打者へ投げた球でボールが三つ出た場合のこと。

**スリーベース、ヒット** (三塁打) 自己の打球によつて一塁に三塁迄奪つたヒットのこと。

**スリーフット、ライン** (三呎線) 走者が此線以外に出た場合はアウトになる、(第二章参照)

**スリーストライク、ノット、アウト** 三度目のストライクを

打者が打たなかつた時はアウトになるのだが若し此場合捕手が球をバツスポールさせた時は安全に一塁を占領する

事が出来るし、夫れでなくとも捕損じた場合は走者となる事が出来る、即ち此場合を指して云ふ。但し一塁へ走者が居つた場合は此限りにあらずでアウトになる。

**スリートライク、アウト** ストラック、アウトのこと。

**スタート** (出發) 走者が塁を出發すること。

**スタンド** (観覧臺) 試合を観覧する席のこと。

**スタンディング** (殘塁) レフト、オン、ベースと同じ意味。

**スライディング** ベース、スライディングと同じ意味。

**スクイズ、プレー** 三塁の走者が死を賭して生還せんが爲め本塁へ冒險的に突進すること多くの場合ツールドウン後に於て行はれる。



スコアリング

試合経過記録法のこと。

スコアラ

試合経過の記録者。

スコアブック

(試合経過記録簿) 試合の経過を一々詳しく記入する帳簿のこと。

スマンク

試合を終つた結果甲組が四點で乙組が零點の時は是を稱へてスマンクの四と云ふ。

ステール

失策によらずして次の壘を奪つたこと。

ステール、ホーム

本壘を奪つたこと。

スピード

球の速度のこと。

スピデー、ボール

投手が打者へ投げた球の速度。

スピット、ボール

どんな球が出るか甚だ危険をカーブのこと。

終りに臨んで

本書を著すに就ては嘗て廣島明道中學の選手として關西一の遊撃手と嘔はれ、廣島球界に於ける誇りとして驍名を馳せた現に我チームの選手、井澤政夫君へ多大の助言を得た事を爰に記して感謝するものである。

野球の手びき(完)



大正五年四月五日印刷  
大正五年四月十日發行

正價金參拾錢

不許複製

〔引手の球野〕

著者 川上 掬月  
發行所 大阪市東區通四丁目四十六番地 矢島嘉平次  
印刷所 大阪市東區北區屋町二十番地 精功舎印刷所

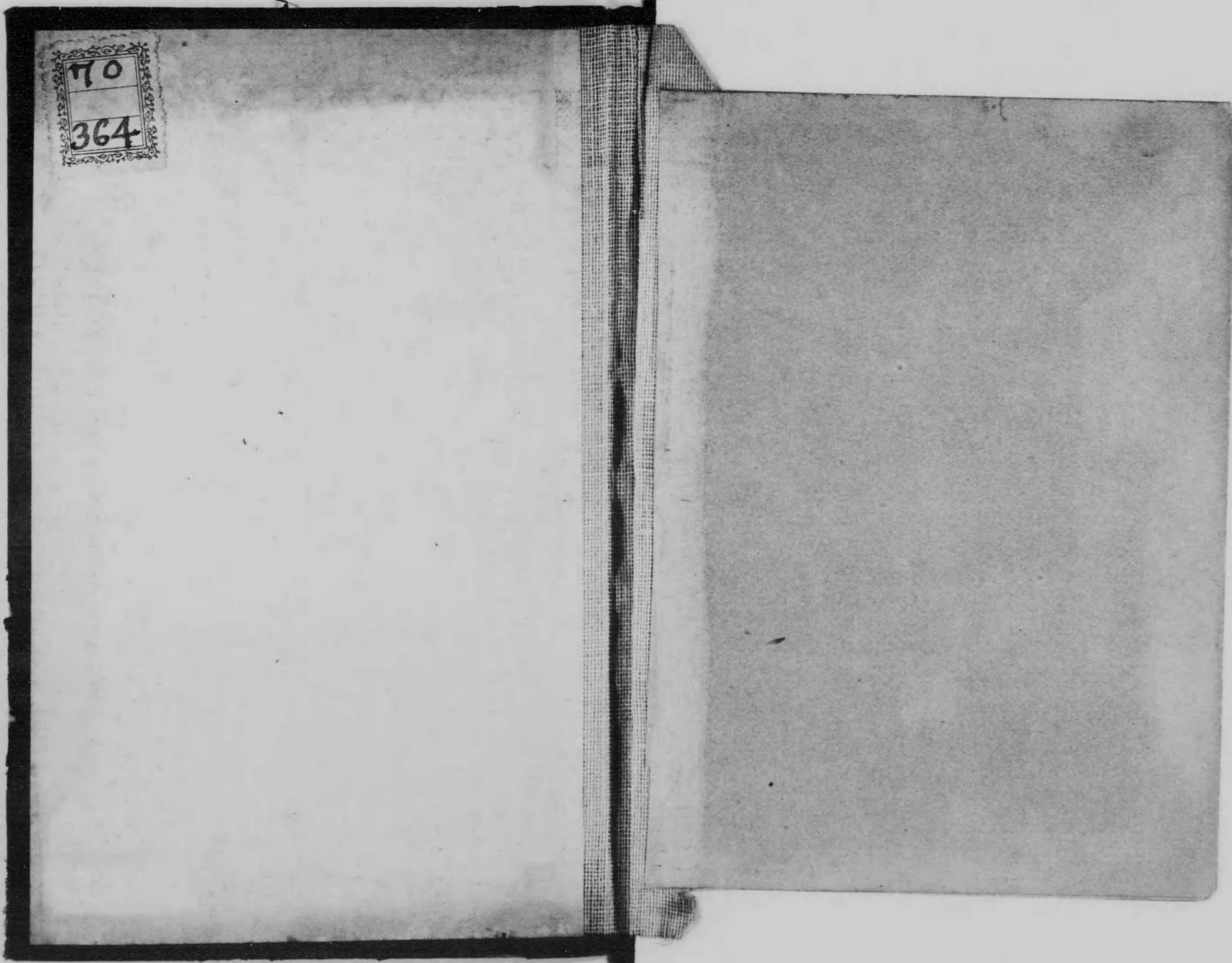
發行所

大阪市南區  
鹽町通四丁目

矢島誠進堂

振替口座大阪一三三四番





70

364



終

